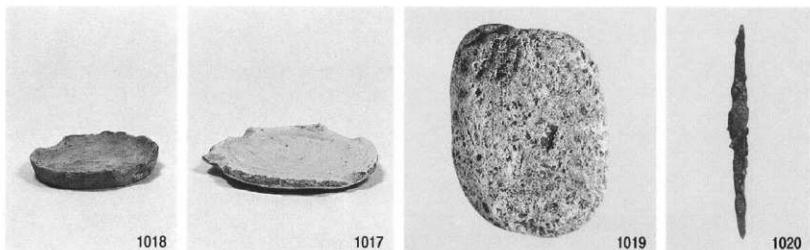


第122図 SY01 内出土遺物実測図 土師器・石製品・鉄製品

出典 番号	種 別	器 種	出土層 遺 墓	調 整(外側)	調 整(内側)	色調(外側)	色調(内側)	胎 土	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	備 考
1017	土師器	环	SY01	回転ナデ	回転ナデ→ナデ	灰白 (10YR8/2)	灰白 (10YR8/2)	1mm以下の磁物・砂粒	-	7.9	-	回転系切
1018	土師器	小皿	SY01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	灰白 (10YR8/2)	灰白 (10YR8/2)	1mm以下の磁物・砂粒	7.6	6.4	1.3	回転系切
1019	石製品	-	SY01	-	-	-	-	-	6.2	4.5	1.6	21.6g
1020	鉄製品	合釘	SY01	-	-	-	-	-	8.6	0.6	0.6	8.2g

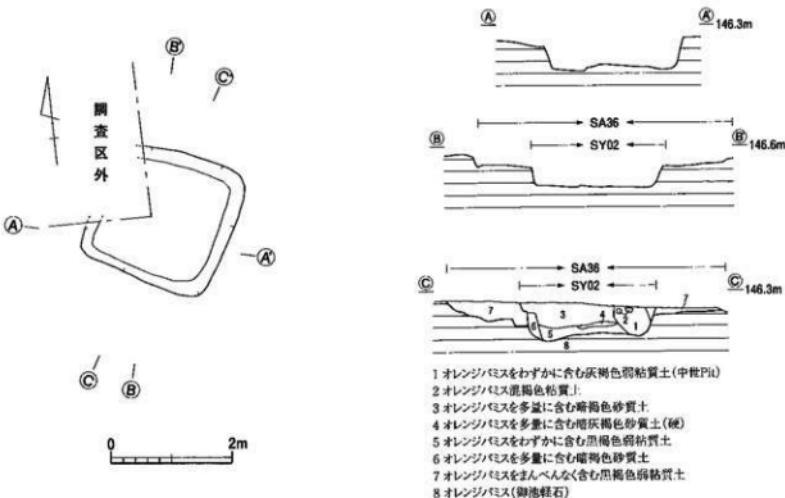
第70表 SY01 内出土遺物実測図 土師器・石製品・鉄製品



図版88 SY01 内出土遺物写真 土師器・石製品・鉄製品

E期、③はE～F期（G期もかかるか）に比定することができよう。先に別冊において報告したように（都城市教育委員会2004）、本遺跡では、7世紀初頭頃に集落が存在した。そして包含層内に遺存した遺物から、平安期あたりにも集落が営まれていた可能性がある。そして、12世紀代もわずかながらその痕跡を残して、13世紀中頃～後半に至って、SB03の出現を期に遺構A群が成立し①の盛行期を迎える。そして、②に至ってSB01を核とした建物群である遺構B群が成立する。この段階において、この総柱状の構造をもつSB01がある種寺院のような機能を果たしていた可能性が指摘できる。またその周辺には付随する建物群が構築され、集落のような状況を呈していたとも考えられる。そしてその周辺、谷間や低湿地帯には水田が開かれ、生産活動が開始されていたであろう。さらに③期に入って遺構C群が成立する。その後、この集落は著しく退行し、おそらくは14世紀末～15世紀前半において水田化されていったものと考えられる。

佐久間高士は、中世の集落を分類し、用途や時期ごとに区分した（佐久間1994）。それに照らせば、本遺跡はD型の村落形態とみなすことができよう。佐久間はこのタイプをさらに区分している。D 1型は「屋敷地の境が直線の溝で区画されているが、溝が全周せずに入口以外にも一部が開いており、比較的開放的な屋敷地で構成される集落」で、鎌倉期の集村形態としている。典型例としては、標高2mの低地の中の南北に走る微高地に立地する13世紀中葉～14世紀中葉の愛知県清洲町土田遺跡、12世紀代～14世紀初頭の集落で、屋敷地を溝で区画した構造をもち、「この集落は13世紀代にすでにかなり大きな集村の形態を持っていた」と指摘する滋賀県野洲町西田井遺跡を挙げている。次にD 2型は「多くの屋敷地が入口以外の四方を溝や堀で囲まれ、比較的閉鎖的な屋敷地で構成される集落」で、南北朝期型とみなす。「13世紀後半から14世紀前半にかけて、中



心部の屋敷地群が幅2mから4m、深さ1m前後の堀に囲まれたものとなり、一部は川に繋がる」滋賀県守山市横江遺跡を典型例としている。本遺跡の集落もこうした時期に対応する型をもつものと想定できる。

2 鶴喰遺跡の歴史的位置付け

当遺跡の北西部に新宮城が接する。これは横市川北岸の台地崖際に築かれた小規模な館状城郭であるが、「台地上にもともと日常的に使用される屋敷地があり、北側に城郭がある古城がある景観であったとみられる」(都城市2005)として、南北朝期に双方の衝突地点としてこの新宮城が登場してくることから、当遺跡とこの城との関連性も浮かび上がる。このことは「この横市地区では、平安末から室町時代にかけての居館跡が検出されており、この地区には有力な開発領主層が存在したとみられ、こうした階層の一部がこの新宮城に換っていたとみられる」(都城市2005)と指摘されていることからもうかがえる。延喜4年(1337)4月23日付建部(池端)清種軍忠状には「為誅伐日向國因徒伊東藤内左衛門尉祐広・肝付八郎兼重以下輩、去年十一月二十一日、馳參国富莊太田城、同廿二日、為対治兼重聴向、結城孫七郎行郷・友永七郎澄雄相共、同十二月六日、兼重与党等權籠押寄下財部院新宮城致合戦」とあるように(都城市2001)、南朝方であった下財部院新宮城を昌山直顯が攻撃している。新宮城とその一帯が「下財部院」のうちにあるという認識がここにみえるが、このことは『庄内地理志』巻69に「古來下財部と記候ハ、御當家数久公・忠相公御時、永正十六年千陀羅寺觀音堂棟札に、日向別下財部郷旋陀羅寺之内、常樂寺霧島大権現本地と在、其後忠相公・忠親公御時、当地大根田天下天神棟札に、下財部之内と有、時久公御代、天正四年右同社棟札に、大隅國下財部之内雨下天神と有、又同御代、当地今房霧島棟札に、弘治三年日州下財部之内霧島権現勅請と在之、下財部之事千陀羅寺觀音、今房霧島ハ日州と有、大根田雨下天神わ隅州と有、然ハ当地日隅に相掛候半、當時ハ御領分全ク日州横市也。」とあり(都城市2003)、中世段階において該地の境界が曖昧であったことを示しているとともに、横市一帯が「下財部」内に繰り込まれていることが確認できよう。また、対岸に位置する加治屋B遺跡では13~14世紀初頭の時



青磁蓮弁文碗
出土状况

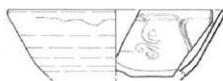
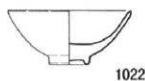


土師器
出土状况

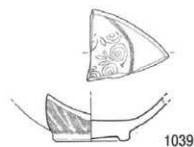
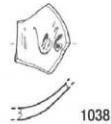
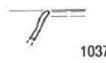
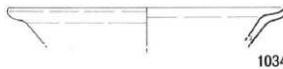
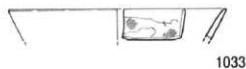
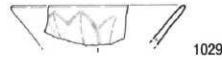
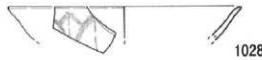
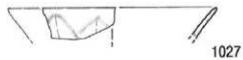
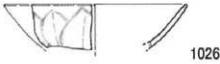
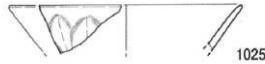
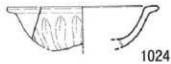


土師器
出土状况

圖版89 Pit 写真

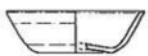


1023



0 5 10cm

第124図 Pit 内出土遺物実測図 陶磁器(1)



1040



1041



1042



1043



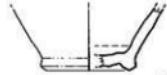
1044



1045



1046



1047



1048



1049



1050



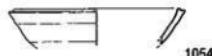
1051



1052



1053



1054

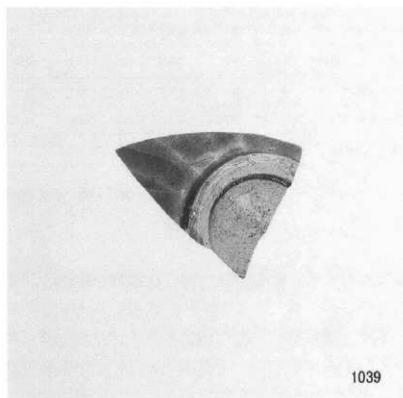
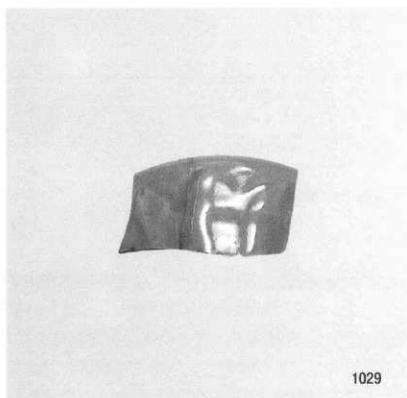
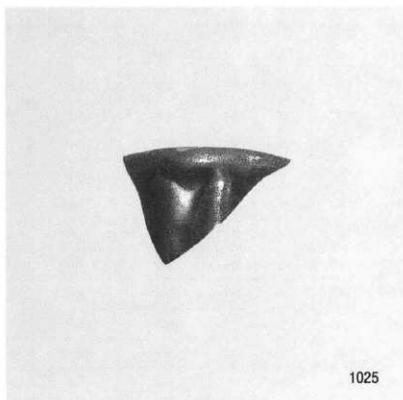
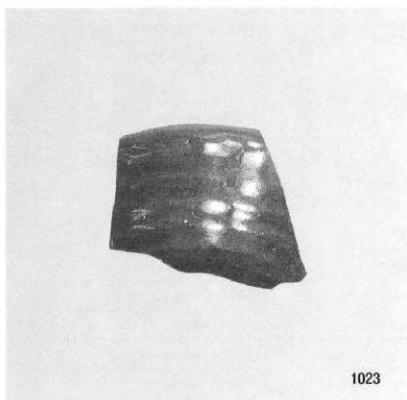
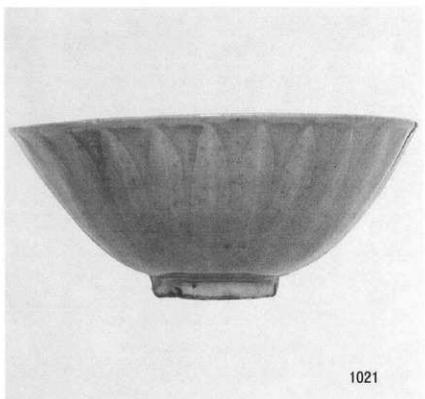
0 5 10cm

第125図 Pit 内出土遺物実測図 陶磁器(2)

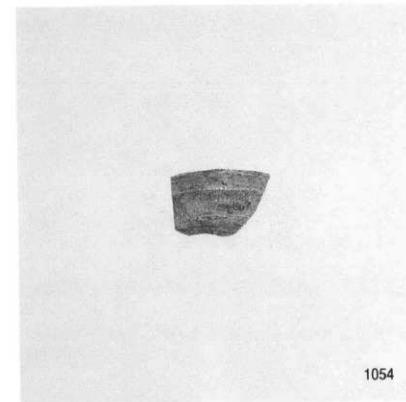
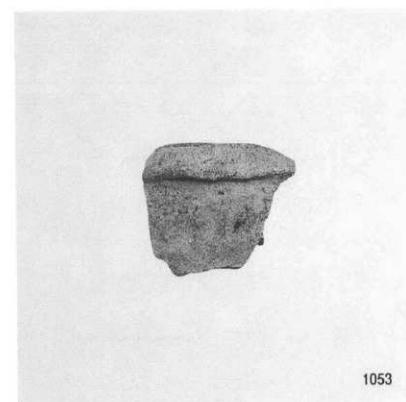
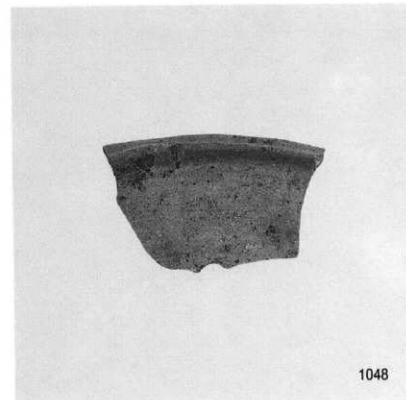
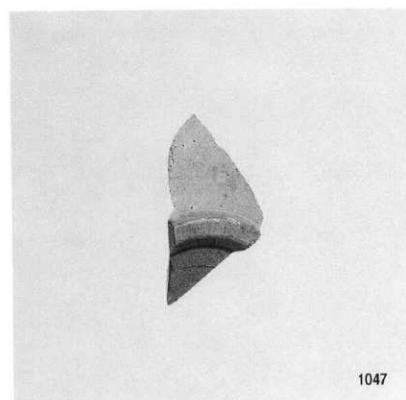
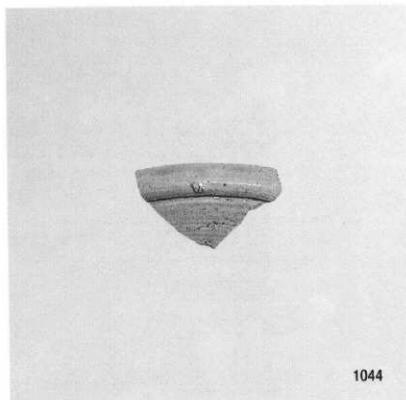
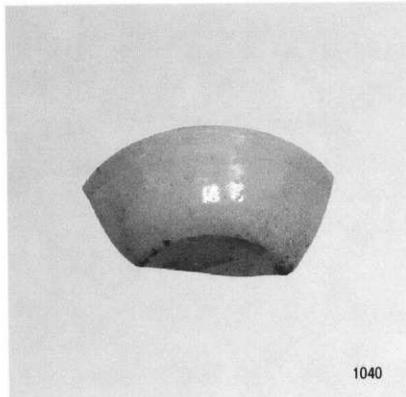
発見番号	種別	器種	出土位置	測量(外側)	測量(内側)	地土	L.H径(cm)	直径(cm)	厚さ(cm)	備考
1021	吉造	碗	PIT	施設	施設	灰白色	15.6	5.0	6.8	(反転復元) 鹿児島系陶器-B類
1022	吉造	小鉢	PIT	施設	施設	灰白色	9.8	3.2	4.2	(反転復元) 鹿児島系小鉢B-1類
1023	吉造	碗	PIT	施設	施設	灰白色	17.1	-	-	(反転復元) 鹿児島系陶器-I-4類
1024	吉造	环	PIT	施設	施設	灰白色	12.0	-	-	(反転復元) 鹿児島系环III-3 or 4 or N類
1025	吉造	碗	PIT	施設	施設	灰白色	18.6	-	-	(反転復元) 鹿児島系陶器-B類
1026	吉造	碗	PIT	施設	施設	灰白色	14.5	-	-	(反転復元) 鹿児島系陶器-B類
1027	吉造	碗	PIT	施設	施設	灰白色	16.6	-	-	(反転復元) 鹿児島系陶器-B類
1028	吉造	碗	PIT	施設	施設	灰白色	18.6	-	-	(反転復元) 鹿児島系陶器-B類
1029	吉造	碗	PIT	施設	施設	灰白色	14.8	-	-	(反転復元) 鹿児島系陶器-B類
1030	吉造	碗	PIT	施設	施設	灰白色	14.1	-	-	(反転復元) 鹿児島系陶器-B類
1031	吉造	碗	PIT	施設	施設	灰白色	17.0	-	-	(反転復元) 鹿児島系陶器-B類
1032	吉造	碗	PIT	施設	施設	灰白色	14.6	-	-	(反転復元) 鹿児島系陶器-B類
1033	吉造	碗	PIT	施設	施設	灰白色	17.2	-	-	(反転復元) 鹿児島系陶器-B-2a類
1034	吉造	盤	PIT	施設	施設	灰白色	22.2	-	-	(反転復元) 鹿児島系陶器-B類
1035	吉造	盤	PIT	施設	施設	灰白色	17.1	-	-	(反転復元) 阿寒窯系陶器類
1036	吉造	环	PIT	施設	施設	灰白色	-	-	-	鹿児島系环II-1類
1037	吉造	碗	PIT	施設	施設	灰白色	-	-	-	阿寒窯系陶器II or 鹿児島系陶器
1038	吉造	碗	PIT	施設	施設	灰白色	-	-	-	鹿児島系陶器I-1類
1039	吉造	碗	PIT	施設	施設	灰白色	-	6.0	-	(反転復元) 鹿児島系陶器II-c類
1040	白磁	盘	PIT	施設	施設	灰白色	11.4	6.2	3.4	(反転復元) 白磁類
1041	白磁	盘	PIT	施設	施設	灰白色	11.4	-	-	(反転復元) 白磁類
1042	白磁	盘	PIT	施設	施設	灰白色	12.1	-	-	(反転復元) 白磁類
1043	白磁	盘	PIT	施設	施設	灰白色	10.6	-	-	(反転復元) 白磁類
1044	白磁	盘	PIT	施設	施設	灰白色	15.0	-	-	(反転復元) 白磁類
1045	白磁	盘	PIT	施設	施設	灰白色	9.2	-	-	(反転復元) 白磁類
1046	白磁	四耳壺	PIT	施設	施設ナデ	灰白色	-	7.4	-	(反転復元) 四耳壺III-3類
1047	白磁	四耳壺	PIT	施設	施設	灰白色	-	8.0	-	(反転復元) 四耳壺II-1類
1048	東経系統東器	片口鉢	PIT	圓柱ナデ	圓柱ナデ	黃褐色	-	-	-	捏缺
1049	東経系統北器	体	PIT	圓柱ナデ	圓柱ナデ	黃褐色	-	-	-	
1050	東経系統南器	体	PIT	圓柱ナデ	圓柱ナデ	黃褐色	-	-	-	
1051	東経系統北器	体	PIT	圓柱ナデ	圓柱ナデ	黃褐色	-	-	-	
1052	東経系統南器	体	PIT	圓柱ナデ	圓柱ナデ	黃褐色	-	-	-	
1053	東経系統南器	片口鉢	PIT	圓柱ナデ	圓柱ナデ	褐灰色	-	-	-	注口部
1054	吉野戸	おろし皿	PIT	施設	施設	灰褐色	13.6	-	-	(反転復元) 前半期以降

第71表 Pit 内出土遺物観察表 陶磁器

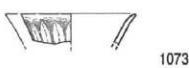
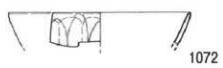
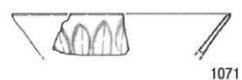
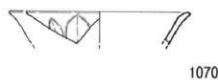
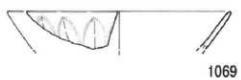
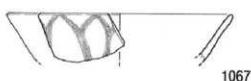
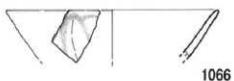
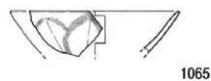
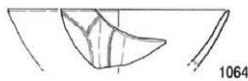
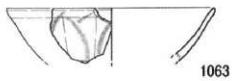
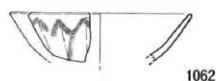
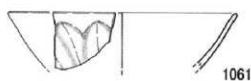
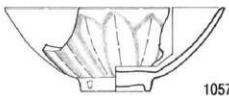
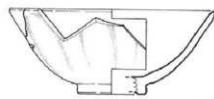
期に相当する、夥しい数の掘立柱建物が確認されており、ここに大規模居館跡が存在している可能性が指摘されている。こうしたことから、該地において有力な在地領主が存在し、その居館が本遺跡一帯もしくは加治屋B遺跡一帯に存在した可能性もある。また、そこには信仰施設が置かれ、町場が存在した可能性もみえよう。こうしてみてみると、高橋修が提起した「町場」の主要構成要素を多分に含んでおり、14世紀初頭頃の都城盆地西部の様相の一端を垣間見ることが可能となろう。もとより、以上はあくまで推論の域を出るものではないが、「横市地区では、居館跡と生産遺跡が発見されており、こうした居館と水田がセットとなった中世の莊園



图版90 Pit 内出土遗物写真 陶磁器(1)

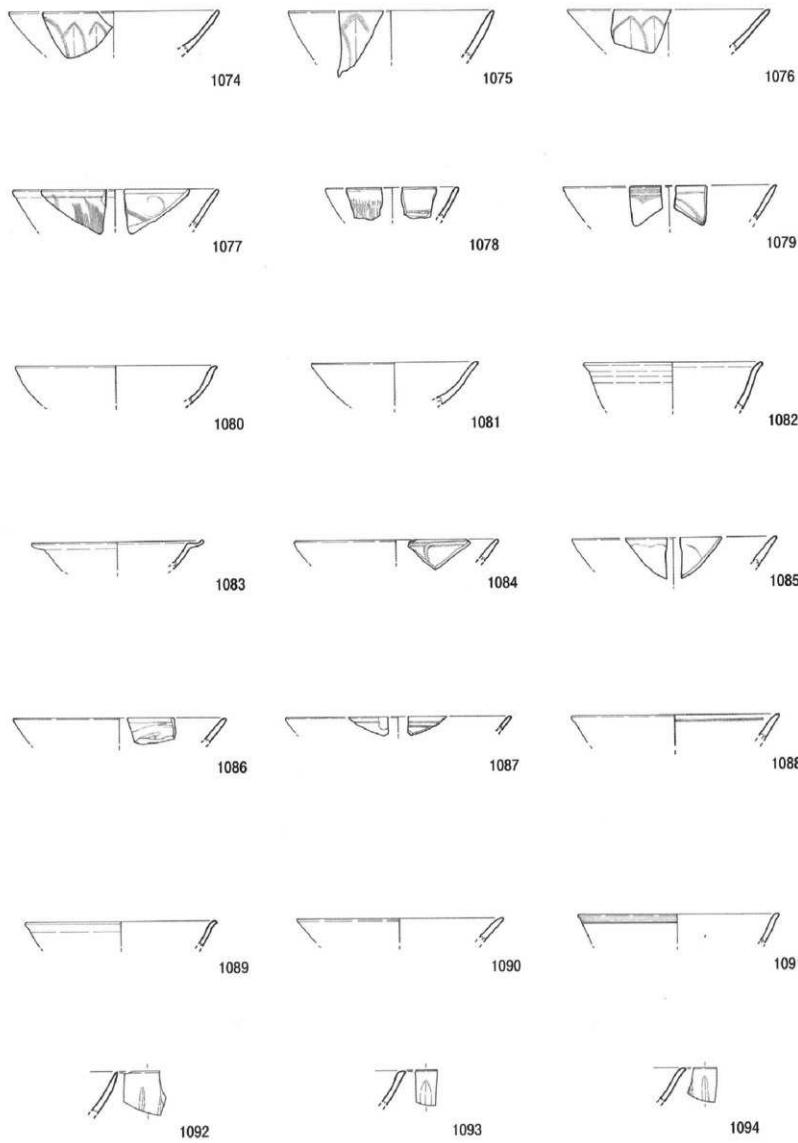


図版91 Pit 内出土遺物写真 陶磁器(2)



0 5 10cm

第126図 包含層内出土遺物実測図 陶磁器(1)



0 5 10cm

第127図 包含層内出土遺物実測図 陶磁器(2)



1095



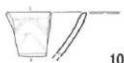
1096



1097



1098



1099



1100



1101



1102



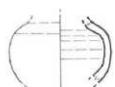
1103



1104



1105



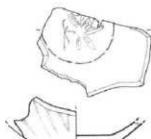
1106



1107



1108



1109



1110



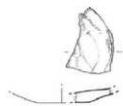
1111



1112



1113



1114



1115



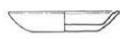
1116

0 5 10cm

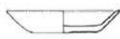


1117

第128図 包含層内出土遺物実測図 陶磁器(3)



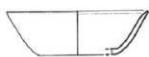
1118



1119



1120



1121



1122



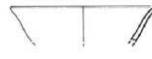
1123



1124



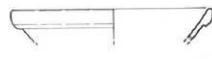
1125



1126



1127



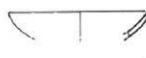
1128



1129



1130



1131



1132



1133



1134



1135



1136



1137



1138



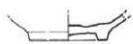
1139



1140

0 5 10cm

第129図 包含層内出土遺物実測図 陶磁器(4)



1141



1142



1143



1144



1145



1146



1147



1148



1149



1150



1151



1152



1153



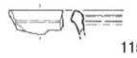
1154



1155



1156



1157



1158



1159



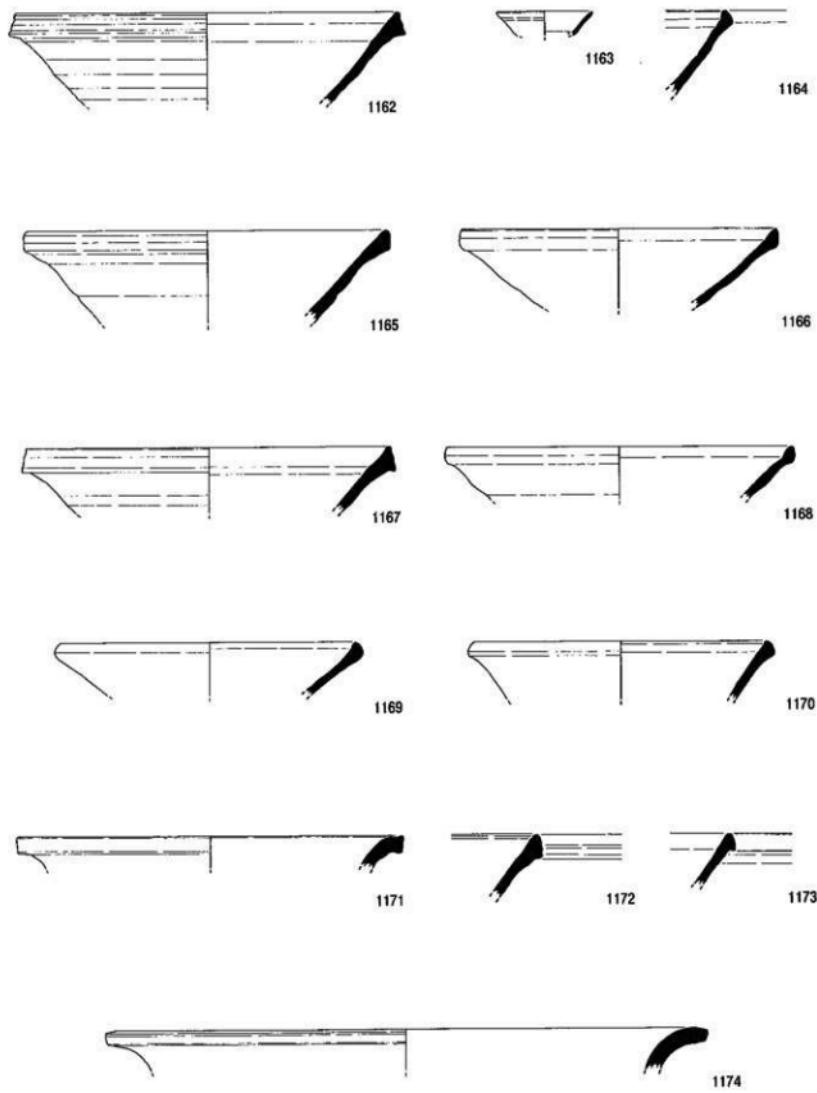
1160



1161

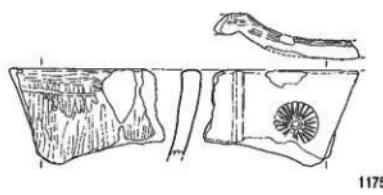
0 5 10cm

第130図 包含層内出土遺物実測図 陶磁器(5)



0 5 10cm

第131図 包含層内出土遺物実測図 陶磁器(6)



1175



1176



1177



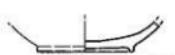
1178



1179



1180



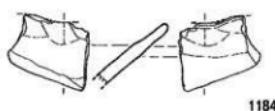
1181



1182



1183



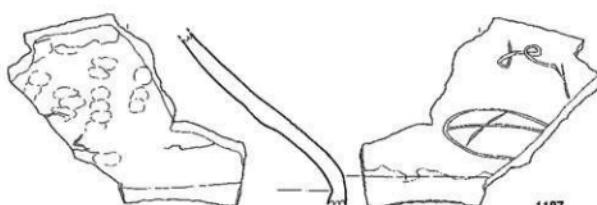
1184



1185



1186



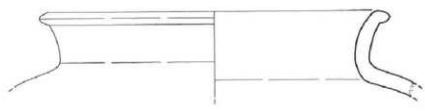
1187

0 5 10cm

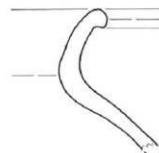


1188

第132図 包含層内出土遺物実測図 陶磁器(7)



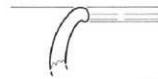
1189



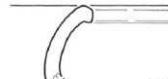
1190



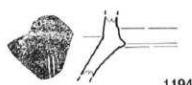
1191



1192



1193



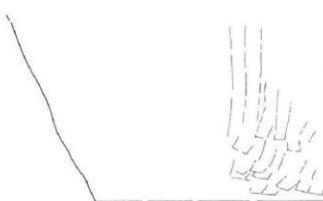
1194



1195



1196



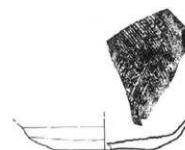
1197



1198



1199



1200

0 5 10cm

第133図 包含層内出土遺物実測図 陶磁器(8)

器物番号	種別	部類	出土層	調査(外面)	調査(内面)	胎土	L径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	備考
1055	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	16.2	5.5	6.7	(灰釉復元) 鹽食器系網II-a類
1056	青磁	豆	包含層	施釉	施釉	灰白色	11.0	-	-	(灰釉復元) 同安窯系III-15類
1057	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	17.4	5.5	6.7	(灰釉復元) 鹽食器系網II-a類
1058	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	17.0	-	-	(灰釉復元) 鹽食器系網II-b類
1059	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	16.9	-	-	(灰釉復元) 鹽食器系網II-b類
1060	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	15.4	-	-	(灰釉復元) 鹽食器系網II-b類
1061	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	18.2	-	-	(灰釉復元) 鹽食器系網II-b類
1062	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	14.3	-	-	(灰釉復元) 鹽食器系網II-b類
1063	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	16.4	-	-	(灰釉復元) 鹽食器系網II-b類
1064	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	17.5	-	-	(灰釉復元) 鹽食器系網II-b類
1065	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	14.4	-	-	(灰釉復元) 鹽食器系網II-b類
1066	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	16.5	-	-	(灰釉復元) 鹽食器系網II-b類
1067	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	17.9	-	-	(灰釉復元) 鹽食器系網II-b類?
1068	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	17.4	-	-	(灰釉復元) 鹽食器系網II-b類
1069	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	17.6	-	-	(灰釉復元) 鹽食器系網II-b類
1070	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	14.3	-	-	(灰釉復元) 鹽食器系網II-b類
1071	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	17.2	-	-	(灰釉復元) 鹽食器系網II-b類
1072	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	14.2	-	-	(灰釉復元) 鹽食器系網II-2C類
1073	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	10.2	-	-	(灰釉復元) 鹽食器系網II-2類
1074	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	16.8	-	-	(灰釉復元) 鹽食器系網II-b類
1075	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	16.4	-	-	(灰釉復元) 鹽食器系網II-b類
1076	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	16.0	-	-	(灰釉復元) 鹽食器系網II-b類
1077	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	16.3	-	-	(灰釉復元) 鹽食器系網II-2類
1078	青磁	小盤	包含層	施釉	施釉	灰白色	10.6	-	-	(灰釉復元) 同安窯系III-15類
1079	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	16.9	-	-	(灰釉復元) 鹽食器系網II-2類
1080	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	16.0	-	-	(灰釉復元) 同安窯系III類
1081	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	13.2	-	-	(灰釉復元) 鹽食器系網II-1類?
1082	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	14.2	-	-	(灰釉復元) 鹽食器系網IV類以降
1083	青磁	环	包含層	施釉	施釉	灰白色	13.6	-	-	(灰釉復元) 同安窯系III'類?
1084	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	16.2	-	-	(灰釉復元) 鹽食器系網II-1類
1085	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	16.2	-	-	(灰釉復元) 鹽食器系網II-2類
1086	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	16.8	-	-	(灰釉復元) 鹽食器系網II-2 or 3類
1087	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	17.9	-	-	(灰釉復元) 鹽食器系網II-2 or 3類
1088	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	16.4	-	-	(灰釉復元) 鹽食器系網II-1類
1089	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	16.3	-	-	(灰釉復元) 同安窯系III?
1090	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	16.2	-	-	(灰釉復元) 鹽食器系網II類
1091	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	15.8	-	-	(灰釉復元) 同安窯系III類
1092	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	-	-	-	鶴見窯系統II-2C類
1093	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	-	-	-	鶴見窯系統II-2類
1094	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	-	-	-	鶴見窯系統II類
1095	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	-	-	-	鶴見窯系統II類?
1096	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	-	-	-	鶴見窯系統II類?

第72表 包含層内出土遺物観察表 陶磁器(1)

編 號	類 別	器 體	出土層 次	調 性(外輪)	調 整(內輪)	胎 土	口徑(cm)	底徑(cm)	厚度(cm)	備 考
1107	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	-	-	-	龍泉窯系器皿-2C類
1108	青磁	环	包含層	施釉	施釉	灰白色	-	-	-	龍泉窯系器皿H-3類
1109	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	-	-	-	龍泉窯系器皿-1B類
1110	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	-	-	-	龍泉窯系器皿-1-2類
1111	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	-	-	-	龍泉窯系器皿以降
1112	青磁	环	包含層	施釉	施釉	灰白色	-	-	-	龍泉窯系器皿-4b類
1113	青磁	环	包含層	施釉	施釉	灰白色	-	-	-	龍泉窯系器皿-3b類
1114	青磁	环	包含層	施釉	施釉	灰白色	-	-	-	龍泉窯系器皿-3 or 4類
1105	青磁	环	包含層	施釉	施釉	灰白色	-	-	-	龍泉窯系器皿類
1106	青磁	小盞?	包含層	施釉	施釉	灰白色	-	-	-	(反版復元) 龍泉窯系器皿以降
1107	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	-	-	-	龍泉窯系器皿-2類
1108	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	-	-	-	龍泉窯系器皿-1類
1109	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	-	5.0	-	(反版復元) 龍泉窯系器皿-B類
1110	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	-	5.0	-	(反版復元) 龍泉窯系器皿-B類
1111	青磁	环	包含層	施釉	施釉	灰白色	-	6.1	-	(反版復元) 龍泉窯系器皿-1類
1112	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	-	5.4	-	(反版復元) 龍泉窯系器皿
1113	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	-	5.6	-	(反版復元) 龍泉窯系器皿類
1114	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	-	4.0	-	(反版復元) 龍泉窯系器皿-1b類
1115	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	-	4.4	-	(反版復元) 阿安窯系器皿-1b類
1116	青磁	环	包含層	施釉	施釉	灰白色	-	-	-	龍泉窯系器皿類
1117	青磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	-	-	-	龍泉窯系器皿 or NV類
1118	白磁	黑	包含層	施釉	施釉	灰白色	8.9	5.3	1.6	(反版復元) 龍泉窯
1119	白磁	黑	包含層	施釉	施釉	灰白色	9.0	5.0	2.8	(反版復元) 龍泉窯
1120	白磁	黑	包含層	施釉	施釉	灰白色	13.0	7.2	2.9	(反版復元) 龍泉窯
1121	白磁	黑	包含層	施釉	施釉	灰白色	11.3	6.0	3.4	(反版復元) 龍泉窯
1122	白磁	黑	包含層	施釉	施釉	灰白色	13.6	8.4	3.9	(反版復元) 龍泉窯
1123	白磁	黑	包含層	施釉	施釉	灰白色	15.2	-	-	(反版復元) 龍泉窯
1124	白磁	黑	包含層	施釉	施釉	灰白色	15.6	-	-	(反版復元) 龍泉窯
1125	白磁	黑	包含層	施釉	施釉	灰白色	11.7	-	-	(反版復元) 龍泉窯
1126	白磁	黑	包含層	施釉	施釉	灰白色	11.8	-	-	(反版復元) 龍泉窯
1127	白磁	黑	包含層	施釉	施釉	灰白色	11.5	-	-	(反版復元) 龍泉窯
1128	白磁	黑	包含層	施釉	施釉	灰白色	15.8	-	-	(反版復元) 龍泉窯
1129	白磁	黑	包含層	施釉	施釉	灰白色	16.2	-	-	(反版復元) 龍V類
1130	白磁	黑	包含層	施釉	施釉	灰白色	17.9	-	-	(反版復元) 龍V類
1131	白磁	黑	包含層	施釉	施釉	灰白色	11.2	-	-	(反版復元) 龍V類
1132	白磁	黑	包含層	施釉	施釉	灰白色	16.1	-	-	(反版復元) 龍V類
1133	白磁	黑	包含層	施釉	施釉	灰白色	13.8	-	-	(反版復元) 龍V-2類
1134	白磁	黑	包含層	施釉	施釉	灰白色	-	-	-	龍V or V-2類
1135	白磁	黑	包含層	施釉	施釉	灰白色	-	6.4	-	(反版復元) 龍紅類
1136	白磁	黑	包含層	施釉	施釉	灰白色	-	6.0	-	(反版復元) 龍紅類
1137	白磁	黑	包含層	施釉	施釉	灰白色	6.4	-	-	(反版復元) 龍紅類
1138	白磁	黑	包含層	施釉	施釉	灰白色	-	5.1	-	(反版復元) 龍V-1類

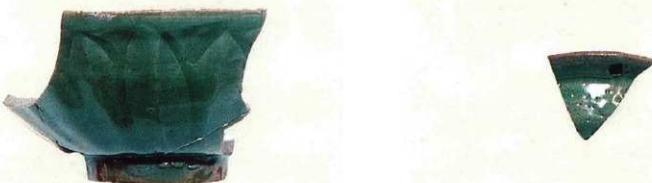
第73表 包含層內出土遺物觀察表 陶磁器(2)

回収番号	種別	器種	出土層位 遺物	調査(汚面)	調査(内面)	胎土	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考
1139	白磁	碗	包含層	圓板ナデ	施釉	灰白色	-	6.3	-	(反板復元) 施釉
1140	白磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	-	4.9	-	(反板復元) 施釉
1141	白磁	碗	包含層	圓板ナデ	施釉	灰白色	-	6.0	-	(反板復元) 施釉
1142	白磁	盤	包含層	施釉	施釉	灰白色	-	5.7	-	(反板復元) 施釉
1143	白磁	盤	包含層	施釉	施釉	灰白色	-	6.0	-	(反板復元) 施釉
1144	白磁	盤	包含層	施釉	施釉	灰白色	-	3.2	-	(反板復元) 施釉?
1145	白磁	盤	包含層	施釉	施釉	灰白色	-	-	-	施釉
1146	青白磁	合子	包含層	施釉	施釉	灰白色	6.4	-	-	(反板復元)
1147	青白磁	合子	包含層	施釉	一部施釉	灰白色	6.6	-	-	(反板復元)
1148	青白磁	合子	包含層	施釉	施釉	灰白色	6.6	-	-	(反板復元)
1149	青白磁	碗	包含層	施釉	施釉	灰白色	11.0	-	-	(反板復元)
1150	青白磁	盤	包含層	施釉	施釉	灰白色	16.6	-	-	(反板復元)
1151	青白磁	盤	包含層	施釉	施釉	灰白色	10.4	-	-	(反板復元)
1152	青白磁	盤	包含層	施釉	施釉	灰白色	-	-	-	
1153	青白磁	梅瓶	包含層	施釉	施釉	灰白色	-	-	-	
1154	青白磁	筒	包含層	施釉	施釉	灰白色	-	-	-	
1155	青白磁	瓶	包含層	施釉	施釉	灰白色	-	-	-	
1156	中國陶器	火口茶碗	包含層	施釉	施釉	灰黃色	-	-	-	
1157	中國陶器	盤	包含層	施釉	施釉	灰黃色	-	-	-	盤1-2類
1158	中國陶器	火口茶碗	包含層	施釉	施釉	灰黃色	-	-	-	
1159	中國陶器	碗	包含層	圓板ナデ	施釉	灰灰色	-	-	-	
1160	中國陶器	盤	包含層	圓板ナデ	施釉	灰黃色	-	-	-	盤1-2類(鉄鉢)
1161	中國陶器	盤	包含層	圓板ナデ	施釉	灰黃色	-	-	-	盤1-2類
1162	東漢系紙漉器	杯	包含層	圓板ナデ	圓板ナデ	褐灰色	32.0	-	-	(反板復元)
1163	東漢系紙漉器	杯	包含層	圓板ナデ	圓板ナデ	褐灰色	8.0	-	-	(反板復元)
1164	東漢系紙漉器	杯	包含層	圓板ナデ	圓板ナデ	褐灰色	-	-	-	
1165	東漢系紙漉器	杯	包含層	圓板ナデ	圓板ナデ	褐灰色	30.4	-	-	(反板復元)
1166	東漢系紙漉器	杯	包含層	圓板ナデ	圓板ナデ	褐灰色	26.4	-	-	(反板復元)
1167	東漢系紙漉器	杯	包含層	圓板ナデ	圓板ナデ	褐灰色	30.0	-	-	(反板復元)
1168	東漢系紙漉器	杯	包含層	圓板ナデ	圓板ナデ	褐灰色	28.8	-	-	(反板復元)
1169	東漢系紙漉器	杯	包含層	圓板ナデ	圓板ナデ	褐灰色	24.4	-	-	(反板復元)
1170	東漢系紙漉器	杯	包含層	圓板ナデ	圓板ナデ	褐灰色	35.3	-	-	(反板復元)
1171	東漢系紙漉器	更	匁食器	圓板ナデ	圓板ナデ	褐灰色	32.0	-	-	(反板復元)
1172	東漢系紙漉器	更	匁食器	圓板ナデ	圓板ナデ	褐灰色	-	-	-	
1173	東漢系紙漉器	更	匁食器	圓板ナデ	圓板ナデ	褐灰色	-	-	-	
1174	東漢系紙漉器	更	匁食器	圓板ナデ	圓板ナデ	褐灰色	49.5	-	-	(反板復元)
1175	瓦質土器	火鉢	包含層	圓板ナデ	エガキ	青灰色	-	-	-	内側の一帯欠損
1176	瓦質土器	土鍋	包含層	腹方向のナデ	腹方向のナデ	灰黃色	-	-	-	(藏内底)
1177	瓦質土器	火鉢	包含層	圓板ナデ	圓板ナデ	灰黃色	-	-	-	
1178	灰陶陶器	入子	包含層	圓板ナデ	施釉	灰黃色	10.0	4.4	3.9	(反板復元) 内・外縁の一部にスズ付着
1179	灰陶陶器	平鍋	包含層	圓板ナデ	施釉	灰黃色	-	-	-	
1180	灰陶陶器	平鍋	包含層	圓板ナデ	施釉	灰黃色	-	-	-	

第74表 包含層内出土遺物観察表 陶磁器(3)

指紋番号	種別	器種	出土層位 遺物	調査(外観)	調査(内面)	胎土	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考
1181	灰陶陶器	碗	包含層	回転ナデ	施釉	灰黄色	-	7.9	-	内面に赤色顔料付着
1182	灰陶陶器	入子	包含層	回転ナデ	施釉	灰黄色	-	4.4	-	(反転復元) 前Ⅲ～中Ⅱ期
1183	灰陶陶器	小鉢か入子	包含層	回転ナデ	回転ナデ	灰黄色	-	2.6	-	(反転復元)
1184	常滑	片口鉢	包含層	回転ナデ	回転ナデ	赤褐色	-	-	-	注口跡
1185	常滑	壺	包含層	自然釉	自然釉	灰黄色	-	-	-	
1186	常滑	壺	包含層	自然釉	横方向のナデ	明赤褐色	-	-	-	
1187	常滑	甕	包含層	自然釉	横方向のナデ	赤褐色	-	-	-	
1188	常滑	壺	包含層	横方向のナデ	自然釉	暗褐灰色	-	14.0	-	(反転復元)
1189	備前	壺	包含層	回転ナデ	回転ナデ	褐灰色	28.0	-	-	(反転復元) Ⅲ期
1190	備前	大甕	包含層	回転ナデ	回転ナデ	褐灰色	-	-	-	Ⅲ期
1191	備前	縹体	包含層	回転ナデ	回転ナデ	明赤褐色	32.2	-	-	(反転復元) Ⅲ期
1192	備前	甕	包含層	回転ナデ	回転ナデ	褐灰色	-	-	-	Ⅲ期
1193	備前	甕	包含層	回転ナデ	回転ナデ	褐灰色	-	-	-	Ⅲ期
1194	備前	縹体	包含層	回転ナデ	回転ナデ	暗赤褐色	-	-	-	
1195	備前	縹体	包含層	回転ナデ	回転ナデ	暗赤褐色	-	11.6	-	(反転復元)
1196	備前	甕か甌	包含層	縱方向のナデ	回転ナデ	褐灰色	-	-	-	
1197	備前	甕か甌	包含層	縱方向のナデ	回転ナデ	褐灰色	-	36.6	-	(反転復元)
1198	国産陶器	入子	包含層	回転ナデ	回転ナデ	褐灰色	7.3	4.0	2.3	(反転復元)
1199	国産陶器	小甕	包含層	回転ナデ	自然釉	褐灰色	-	3.4	-	(反転復元)
1200	国産陶器	おろし皿	包含層	施釉	施釉	浅黄褐色	-	8.0	-	(反転復元)

第75表 包含層内出土遺物觀察表 陶磁器(4)



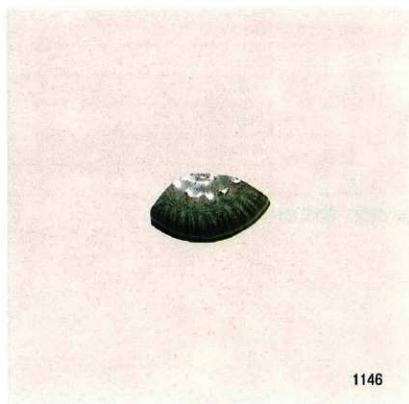
図版92 包含層内出土遺物写真 陶磁器(1)



1114



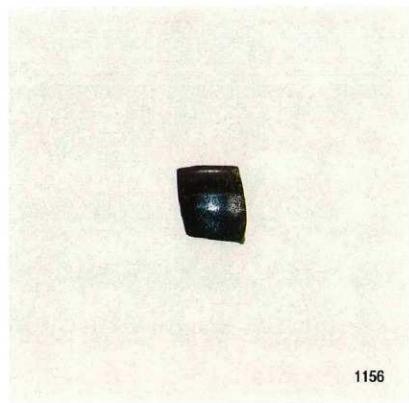
1143



1146



1149



1156



1162

图版93 包含层内出土遗物写真 陶磁器(2)



1176



1178



1181



1187

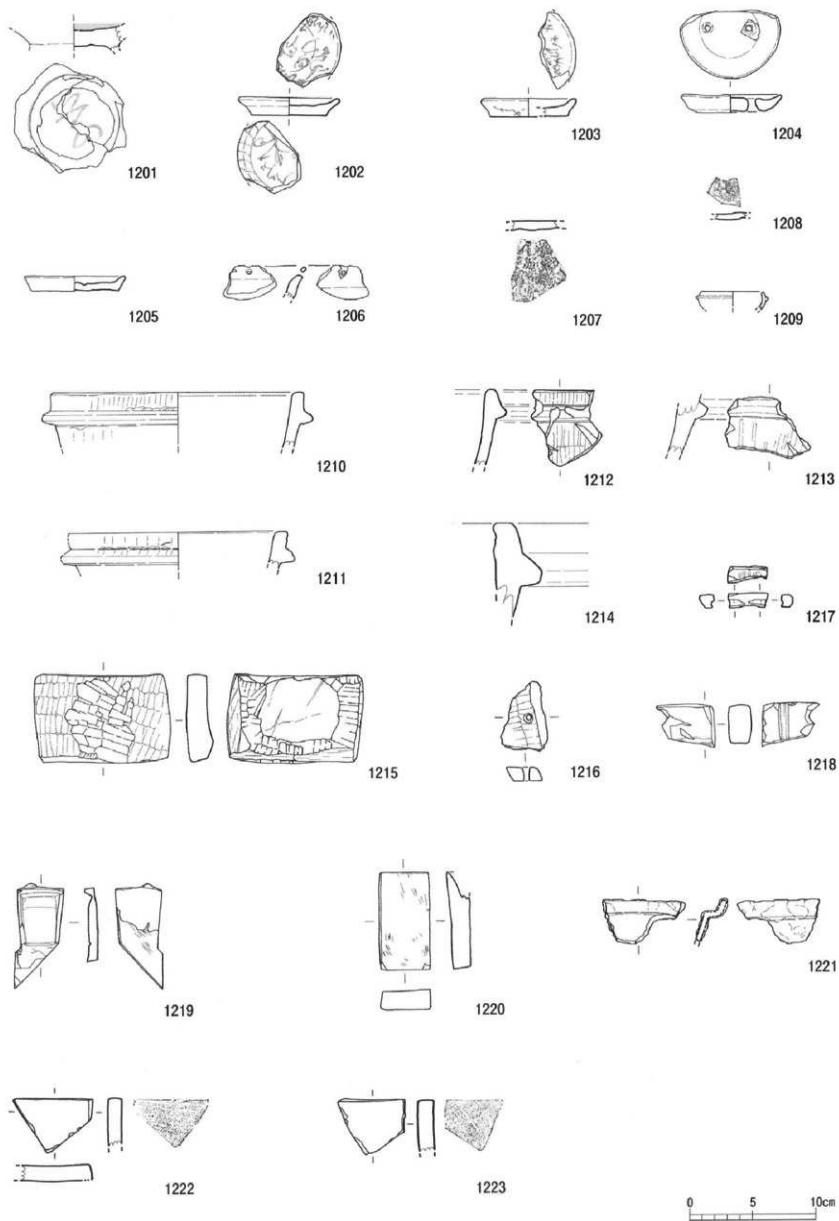


1195



1199

図版94 包含層内出土遺物写真 陶磁器(3)



第134図 包含層内出土遺物実測図 墨書土器・石製品・鐵製品・瓦

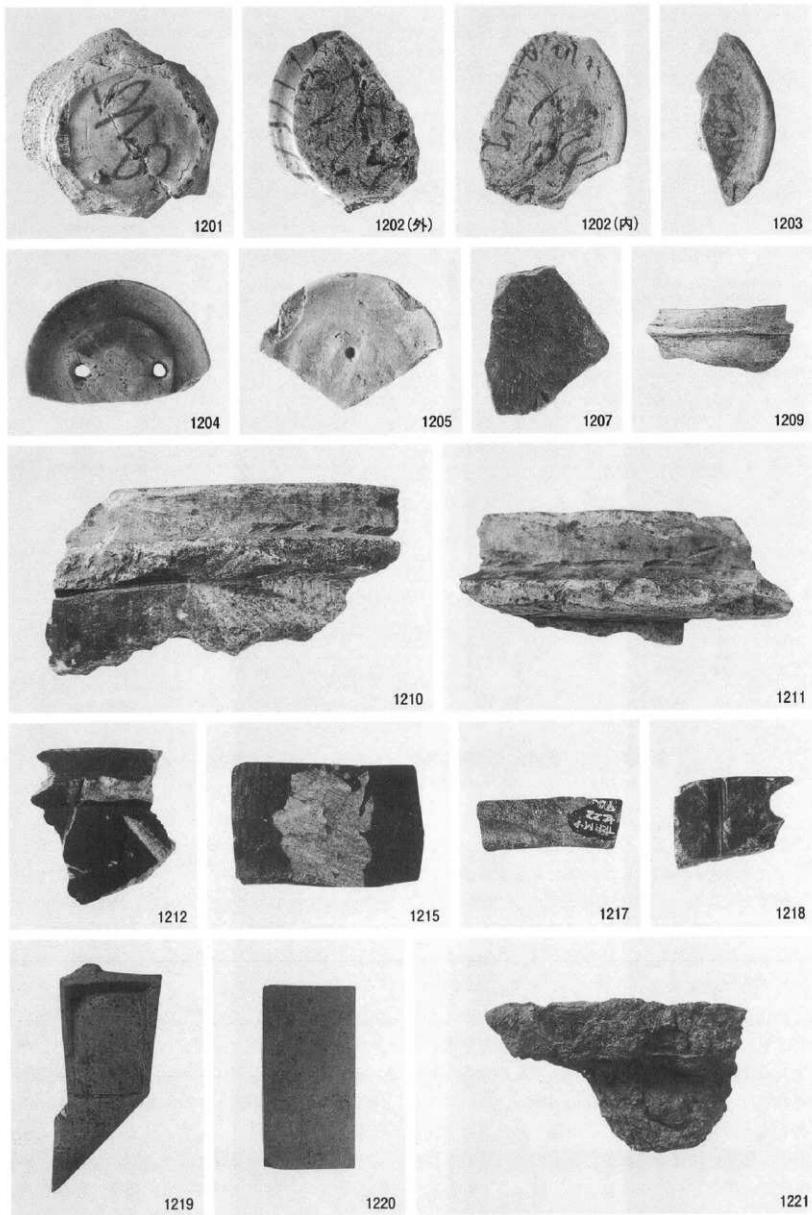
発見番号	種別	器種	出土層	調査(外観)	調査(内面)	色調(外観)	色調(内面)	形状	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考
1201	黑色土器	高台付鉢	佐倉層	-	ミガキ	黒 (N15/5)	浅黄褐色 (7.5YR8/3)	2mm以下の底脚-砂粒	-	-	-	墨書き
1202	土師器	小豆	包含層	圓軸ナダ	圓軸ナダ→ナダ	浅黄褐色 (7.5YR8/4)	浅黄褐色 (7.5YR8/4)	2mm以下の底脚-砂粒	8.1	6.0	1.4	圓軸赤切 内外墨書き
1203	土師器	小豆	佐倉層	圓軸ナダ	四軸ナダ→箇ナダ	浅黄褐色 (7.5YR8/4)	浅黄褐色 (7.5YR8/4)	2mm以下の底脚-砂粒	7.6	6.3	1.4	圓軸赤切 内外墨書き
1204	土師器	小豆	包含層	圓軸ナダ	圓軸ナダ	浅黄褐色 (7.5YR8/3)	浅黄褐色 (7.5YR8/3)	1mm以下の底脚-砂粒	8.0	6.6	1.5	圓軸赤切 内外墨書き 底部穿孔2
1205	土師器	小豆	佐倉層	圓軸ナダ	圓軸ナダ	浅黄褐色 (7.5YR8/4)	浅黄褐色 (7.5YR8/4)	ごく微小の底脚-砂粒	8.0	6.8	1.2	圓軸赤切 板状底面 底部穿孔
1206	土師器	-	包含層	-	-	浅黄褐色 (7.5YR8/4)	浅黄褐色 (7.5YR8/4)	2mm以下の底脚-砂粒	-	-	-	穿孔
1207	土器	-	包含層	-	-	黃灰 (2.5YR8/1)	黃灰 (2.5YR8/1)	2mm以下の底脚-砂粒	-	-	-	軽削 磨擦跡斑痕
1208	土師器	坪	包含層	-	-	焼 (5YR7/6)	焼 (5YR7/6)	ごく微小の底脚-砂粒	-	-	-	斜傾ヘア切 内底スタンプ痕
1209	土師器	ミニチャーピー 土器	包含層	ナダ	ナダ	浅黄褐色 (10YR8/3)	浅黄褐色 (10YR8/3)	ごく微小の底脚-砂粒	5.0	-	-	若葉
1210	滑石製品	石硝	包含層	-	-	-	-	-	20.1	-	-	灰板復元
1211	滑石製品	石硝	包含層	-	-	-	-	-	17.4	-	-	反板復元
1212	滑石製品	石硝	包含層	-	-	-	-	-	-	-	-	破片
1213	滑石製品	石硝	包含層	-	-	-	-	-	-	-	-	破片
1214	滑石製品	石硝	包含層	-	-	-	-	-	-	-	-	破片
1215	滑石製品	-	包含層	-	-	-	-	-	16.7	7.1	1.9	315g 石硝底部付近 加工痕
1216	滑石製品	-	包含層	-	-	-	-	-	5.4	3.7	1.1	33g 石硝側用 孔
1217	滑石製品	-	包含層	-	-	-	-	-	3.1	1.2	1.2	6.7g 石硝側用 穴孔
1218	滑石製品	-	包含層	-	-	-	-	-	4.5	3.5	1.7	46.9g 石硝側用 穴孔 滑痕
1219	石製品	硯	包含層	-	-	-	-	-	8.5	3.3	0.8	32.1g 砥石側用 磨痕
1220	石製品	硯石	包含層	-	-	-	-	-	7.6	4.0	1.5	8.62g
1221	鉄製品	鍋	包含層	-	-	-	-	-	6.4	3.4	0.4	217g 破片
1222	瓦	平瓦	包含層	-	布目	灰白 (5YR4/1)	灰白 (10YR8/2)	1mm以下の底脚-砂粒	-	-	-	厚×鉄分付瓦
1223	瓦	下瓦	包含層	-	布目	灰白 (10YR8/1)	灰白 (10YR8/1)	2mm以下の底脚-砂粒	-	-	-	薄×鉄分付瓦

第76表 包含層内出土遺物観察表 土器・石製品・鉄製品・瓦

の様相を示すモデルの例」(都城市2005)として重要な評価を得ており、該地の状況を明らかにするためには、今後大局的見地からの検討を行っていく必要もあるろう。

全国的にも最大級とされた島津莊は、大宰府の大監:平季基によって原型がつくられ、万寿年間(1024~28)に藤原頼通に寄進されたのが出発点とされる。以後摂関家の権威を背景にした大宰府のバックアップを受けながら成立し、拡大した。鎌倉期には、島津忠久が源頼朝より下司職補任され領知した。その後は北条得宗領となり、重時流赤橋氏(守護)の長期支配が行われた。14世紀以後は本莊の有力莊官であった日向日置氏の勢力下におかれるとみられ、この一族の動向が南北朝の動乱・莊園領制の崩壊への加速という歴史的背景を如実に示している。こうした莊官等によって行われた開発は、扇状地の湧水池周辺(古代以前より)や大淀川・沖水川・庄内川などの低地(氾濫原)から扇状地・段丘面へと進み、居館をその後背地である河岸段丘・扇状地の崖などに営むようになっていく(宮崎県1998)。『宮崎県史』は以上のように概説しているが、島津莊の歴史的解明や、該期における村落のあり方など、いまだ課題は山積されているといえよう。横市地区遺跡群はこうした歴史的背景を検証できるだけの資料を提供してきている。鶴喰遺跡と対岸の加治屋遺跡、新宮城と母智谷遺跡などが散在するこの一帯は、下財部院の一拠点として、また「財部路」の陸運、横市川の水運をおさえる集積地もしくは交通の拠点として存在していたということも考えられる。今後の報告によって調査データのさらなる蓄積がはかられることと思うが、それに伴って都城盆地の歴史的様相の解明がさらに進展することを期待するものである。

(米澤)



図版95 包含層内出土遺物写真 墨書き土器・石製品・鉄製品



図版96 姫城中体験発掘
平成9年11月7日 SD22・23を発掘

【引用・参考文献】

- ・朝日新聞社・上海博物館 1966『青花磁器展』
- ・国立歴史民俗博物館 2005『東アジア中世海道－海商・港・沈没船－』
- ・佐久間貴士 1994「発掘された中世の村と町」(『岩波講座 日本通史 第9巻 中世3』岩波書店)
- ・高橋修 2002『中世前期の在地領主と『町場』』(『歴史学研究』増刊号)
- ・「太宰府土器模式と国産陶器・貿易陶磁器編年 [2000.2補訂]」(太宰府市教育委員会 2000『太宰府条坊跡XV』)
- ・都城市 2001『都城市史 史料編 古代・中世』
- ・都城市 2003『都城市史 史料編 近世3』
- ・都城市 2005『都城市史 通史編 中世・近世』
- ・都城市教育委員会 2004『鶴喰遺跡(古墳時代編)』都城市文化財調査報告書第61集
- ・宮崎県 1998『宮崎県史 通史編 中世』

フリガナ	ツルハミイセキ(チュウセイヘン)					
書名	鶴喰遺跡(中世編)					
副書名	県営は場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書					
卷次						
シリーズ名	都城市文化財調査報告書					
シリーズ番号	第79集					
編著者名	近沢恒典・下田代清海・米澤英昭					
発行機関	都城市教育委員会					
所在地	宮崎県都城市姫城町6街区21号					
発行年月日	平成19年(2007)3月22日					
フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
ツルハミイセキ 鶴喰遺跡	みやこのじょうし 都城市 横町 あおもて 字表	31°44'40" 付近	131°1'20" 付近	1996.10.1 ~ 1997.11.30	8,100m ²	県営は場 整備事業
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
中世建物群	中世	掘立柱建物 石組遺構 土坑 溝状遺構	上師器 中国產磁器 国産陶器 鉄製品	撲滅的機能を有する 14世紀初頭の建 物群		

都城市文化財調査報告書 第79集

鶴喰遺跡(中世編)

平成19年(2007)3月22日

編集・発行 宮崎県都城市教育委員会

〒885-8555

宮崎県都城市姫城町6街区21号

TEL0986-23-9547 FAX0986-24-1989

印 刷 株式会社みやこ印刷

〒885-0026

宮崎県都城市大王町51-22

TEL 0986-23-1682 FAX0986-22-1682



第11図 B・D地区造構配置図